

2020.7.12 年間第 15 主日

種それぞれ

マタイ福音書 13 章 1-9

その日、イエスは家を出て、湖のほとりに座っておられた。すると、大勢の群衆がそばに集まって来たので、イエスは舟に乗って腰を下ろされた。群衆は皆岸辺に立っていた。イエスはたとえを用いて彼らに多くのことを語られた。「種を蒔く人が種蒔きに出て行った。蒔いている間に、ある種は道端に落ち、鳥が来て食べてしまった。ほかの種は、石だらけで土の少ない所に落ち、そこは土が浅いのですぐ芽を出した。しかし、日が昇ると焼けて、根がないために枯れてしまった。ほかの種は茨の間に落ち、茨が伸びてそれをふさいでしまった。ところが、ほかの種は、良い土地に落ち、実を結んで、あるものは百倍、あるものは六十倍、あるものは三十倍にもなった。耳のある者は聞きなさい。」

説教

鳥に食べられてしまう種、すぐ発芽するけれど枯れてしまう石の上の種、いばらにふさがれて成長をさまたげられる種、いい土地に落ちて実を結ぶ種、どれが一番だと思う？ イエスは問いかけているわけではなく「耳のある者は聞きなさい」といいました。普通に聞けば、実を結ぶ種が一番だと思います、でもイエスはいいます。「耳のある者は聞きなさい」

鳥にたべられちゃう種が一番、実を結ぶ種をビリにしてみます。実を結ぶ種は人に食べられます。せつかく成長しても結局は食べられてしまいます。鳥のほうも食べる点では同じです。種を食べるか、実を食べるか（実の場合は種を 100 倍にする）の違いです。鳥にしても人にしても生き延びるために食べます。鳥よりも人の方がえらいような気がするので人に食べられる実のな

る種の勝ちでしょうか。1粒より100粒のほうが多いので「良い土地に落ちた種」の勝ちでしょうか。

自分の身に振り返って考えてみましょう。道端に落ち鳥に食べられてしまう種、石地の上に落ちてすぐに枯れる種、茨の間に落ち成長をさまたげられる種、まるで自分のことをいっているように思えてきませんか。良い土地に落ちてなに不自由なくすくすく育ち、100倍、60倍、30倍、の身を結んだ種、このたとえはまるでわたしのことを言っている、そんな人いますか？

この種まきのたとえには23節まで続きがあります。理解しがたい内容、凡庸な説明が10-23節に書いてあります。マタイ13章10-23節は新しい聖書学ではイエスのことばではないとされています。

自分だけは良い土地に落ちた種だと思いあがるな、実を結ぶ種こそ価値ある種だと惑わされるな。

イエスのことばを自分の耳で聞き取り、「鳥たね、石たね、茨たね」に思いをめぐらせてください。
